熊本に仏具300セット

手を合わせる場所　被災者に

浄土真宗ボランティア泉州

大阪の僧侶グループ

・浄土真宗ボランティア泉州は、災害時に本山から被災者に交付されるご本尊に添えて、礼拝に必要な「簡易仏具セット」を届ける活動を続けている（写真）。セットの中身は、蠟燭立、花瓶、土香炉、鈴、灰、蠟燭、線香、日常勤行聖典、念珠、一語法話。

賛同する泉州地域の12カ寺から35万円が寄せられたほか、仏具店なども協力して、9月8日までに250セットを熊本地震の被災者に届けている。

同グループは、平成7年の阪神・淡路大震災を機に「自分たちに何かできることはないか」と発足した。仏具セットを贈る活動は、23年の東日本大震災から始め、東北に700セットを届けた。

代表の根來亮裕さん（62、大阪府岸和田市・西性寺住職）は、「少しでも、手を合わせる場所がないという被災者のためになれば。現地で長期間活動することは難しいが、自分たちにできることがあれば何でもするという気持ちで今後も活動を継続していきたい」と語った。

本尊の無償交付　宗派は被災者支援として、ご本尊（阿弥陀如来絵像、六字名号）を、寺院の申請により無償交付している。熊本地震では、560幅を交付した（9月16日現在）。